

普及活動情勢報告（平成30年10月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

災害を地域みんなで乗り越える！ ～台風被害の復旧支援活動～



みんなで力を合わせましょう！

9月30日、台風24号により室戸市のハウス（促成ナス）で高潮による越波被害が発生しました。そこで、10月4日に農業改良普及課室戸支所はJA営農課、地域の生産者とともに復旧支援活動を行いました。まず越波によりハウス内に流れ込んだ流木や土砂を外に運び出し、海水が浸水していない部分ではほ場を区切ってビニールを張り直したことで、ほ場の一部でナス栽培を継続できるようにしました。被災した生産者は「最初、被害のあったハウスを見たときは栽培を続けられるか心配だったが、皆に助けられた。栽培は続ける。」とやる気を出していました。室戸支所は、今後もJA営農課や市役所と連携し、被災した生産者に対する支援を続けます。

光を反射する防虫ネットに換えませんか？ ～花卉部芸西支部トルコギキョウ部会現地検討会～



「ヨトウは何の農薬を
かけたらいい？」

10月2日、花卉部芸西支部トルコギキョウ部会が現地検討会を開催し、生産者8人が出席しました。農業改良普及課からは、県外で新たに発生したトルコギキョウベと病などの病害の情報提供や、県単独事業の補助金を活用して光反射資材を織り込んだ防虫ネットの導入啓発を行いました。現地ほ場では、年内出荷分の状況を確認し、水管理やハスモンヨトウなどの病害虫防除について指導しました。多くの生産者からは、「一部のハウスで防虫ネットを張ってみたい」という声が聞かれ、導入への意欲を高めることができました。農業改良普及課は、今後もJAと連携して、施設花き栽培でのIPMを推進します。

病害防除のための湿度コントロールを学ぼう！ ～JA土佐あき北支所ナス勉強会～



「湿度コントロールを
しっかり実践しましょう」

10月9日、JA土佐あき北支所で安芸集出荷場管内の生産者を対象にナスの勉強会を開催し、生産者5人が出席しました。他の支所では年2回勉強会を開催していますが、北支所では初の試みでした。農業改良普及課は、除湿管理の必要性や北支所管内で行っている湿度制御の取り組みについて指導しました。また、今回の勉強会では農業技術センターから講師を招き、効果的な除湿方法について講義を行っていただきました。参加者から「今年の厳寒期に除湿管理をやってみる」と前向きな意見を引き出すことができました。農業改良普及課は、今後も各支所で湿度制御の勉強会を開催し、効率的な病害防除の普及を図ります。

高知県版GAPに取り組もう！ ～赤野支部園芸部通常総会～

10月10日、赤野支部園芸部の総会が赤野集出荷場で開催され、生産者41人が参加しました。

農業改良普及課は、赤野支部園芸部で高知県版GAPに取り組むにあたり、農業を営む上で起こり得るリスクへ事前に対策することもGAPの取組の1つであることを説明しました。

生産者からは「草刈り機を使うときはゴーグルをする」や「危険な作業は一人でしない」等の具体的な対策が挙がり、GAPへの理解が深まりました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、勉強会や個別巡回で高知県版GAPの実践を支援します。

毎月GAP点検シートで
チェックしています

油断大敵!気付けばそこに奴がいる!! ～花卉部芸西支部ブルースター部会現地検討会～



「アザミウマ類が
最近増えてきてるやん!!」

10月11日、花卉部芸西支部ブルースター部会が現地検討会を開催し、生産者7人が出席しました。

農業改良普及課からは、8月以降のアザミウマ類の野外発生調査の結果について説明し、害虫防除に対して注意喚起しました。また、疫病や青枯病などの土壌病害が発生していることから、土壌消毒について指導しました。

生産者からは、「今年は夏場に虫が少なかったことがよくわかった。来年もぜひ調べてほしい」、「今年は太陽熱消毒の期間が足りてなかったかな・・・」といった声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後もJAと連携して全国一のブルースター産地の維持発展に向けて支援します。

新規露地品目としてブロッコリーの栽培に取り組む ～集落営農組織「百石ファーム」～



収穫までしっかり管理するぞ!!

奈半利町の集落営農組織「百石ファーム」は、冬季の露地品目として新たにブロッコリー栽培に取り組むこととしました。

農業改良普及課は、「百石ファーム」がブロッコリーを初めて栽培することから、栽培計画や施肥設計、ほ場づくりなどについて指導しました。育苗は一般社団法人「なはりの郷」に依頼し、10月19日に組合員5人で、7aのほ場に定植しました。収穫予定時期は年明け1月頃で、病虫害対策や肥培管理などの適期作業ができるように指導を継続します。

農業改良普及課は、今後も集落営農組織が集落の担い手として地域の農業を守っていけるように支援します。